

策定年度：平成26年

変更年度：平成27年

目標年度：平成28年

美郷町水田フル活用ビジョン



美郷町農業再生協議会

(別記)

美郷町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当町は島根県のほぼ中央部に位置し、東を飯南町、西を川本町、南を邑南町、広島県三次市、北を大田市に隣接している。総面積は 282.92 km²で、江の川の沿岸部及びその支流の浸食により形成された急峻な地形が多いことから、総面積の大半を山林が占めている。このため、居住可能面積はわずかである。

総面積の 95% は山林が占めており、耕地は 3% 余りと僅少で、ほとんどは町内を縦断する一級河川江の川とその支流に沿って、帯状あるいは階段状に小規模農地が点在している。このため 1 戸あたりの平均耕作面積は、約 40 a と小規模で、稻作を中心に野菜、畜産、椎茸などの複合経営を営んでいる。農業就業人口に占める 70 歳以上の高齢者の割合は 70% を超えている状況から、後継者不足や耕作放棄地の増加が課題となっているが、今後は農地中間管理機構を活用した農地の集積・集約化について、関係機関と連携を図りながら積極的な協力をを行い、農業の振興発展に向けた取り組みに努めていく。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

主食用米の生産は本町農業の基幹であり、古くから良質米生産地域として米の生産振興を積極的に展開してきたため、水稻への依存度が高く、現在でも農業産出額の約 50% を占める状況になっている。

こうした状況のなか、米生産目標数量の配分は年々減少しており、主食用米については経営所得安定対策等の下で需要に即した計画的作付けによる高品質米の生産を図っていく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

これまで近隣に飼料用米の受け入れヤードがないために町内での生産はなかったが、27 年秋までに石見ライスセンターの調製施設の整備が完了予定であることから、27 年産からの生産が可能になった。今後生産調整が拡大し、転作率が 50 % を超えることが予測されており、飼料用米は WCS 用稻と同様に有効な転作作物であることから、JA をはじめ関係機関と連携をして生産を促進していく体制づくりを進めていく。

イ WCS 用稻

WCS 用稻は、水田が有する多面的機能を保持したまま飼料作物の生産が可能であること、生産物と堆肥の交換を通じて耕種農家と畜産農家を結びつけられること及び水田の有効活用が可能であることから今後も生産拡大に向けて推進を図っていく。

(3) 大豆

現状では作付面積は少ないものの、6次産業化に対応した地域の特産化により販売収入の確保を図るとともに、排水対策等の生産基盤の整備と収量・品質の向上、増産に対応できる体制づくりを進めていく。

(4) 飼料作物

輸入粗飼料価格の高騰や安全性の問題がある中で、自給飼料による安全安心な畜産物が求められており、栽培面積の拡大をめざすとともに、畜産農家のコスト軽減を図っていく。

(5) 重点品目

①そば

当町は古くから県内有数のそば産地として生産振興を図っており、実需者からも高い評価を受けている。水田営農における転作作物として重要な作物となっており、今後も収量・品質の安定化を図り、生産者の拡大に努めていく。

②白ねぎ

これまで重点品目として産地化を進めているが、生産者の高齢化が進んでおり、面積の拡大ができていないが、今後は作業の省力化を図り継続して振興を図っていく。

③なす

これまで重点品目として産地化を進めており、個人農家以外に一部集落営農組織での取り組みも出てきている。今後も他の組織での生産が拡大するよう継続して振興を図っていく。

④キャベツ

昨年度から戦略的な重点品目に位置づけをして試験的に栽培を開始した。今後は個人農家だけでなく集落営農組織での生産と産地化を促進し、面積の拡大を図っていく。

⑤トマト・ミニトマト

これまで重点品目として産地化を進めてきており、需要の高い品種の選定や新規作付者の増加等を通じ、継続して振興を図っていく。

⑥広島菜

これまで契約野菜として産地化を進めてきているが、契約量を満たしていない現状があり、今後は個人農家だけでなく集落営農組織での生産を促進していく。

⑦メロン

これまで重点品目として産地化を進めているが、生産者の高齢化が進んでおり、面積の拡大ができていないが、今後は作業の省力化を図り継続して振興を図っていく。

⑧花き

これまで重点品目として産地化を進めてきており、特にトルコギキョウをはじめとする切花については、講習会等を通じて品質向上を図っていく。

(6) その他野菜全般、雑穀、大麦若葉、菌床椎茸、はと麦

ピーマン、インゲンについては従来から作付けを振興しており、取り組みやすい作物であることから、今後も地域の振興作物として取り組んでいく。その他野菜（大麦若葉、菌床椎茸、はと麦含む）、雑穀についても定着が図られており、農家所得につながることから作付を進めていく。

(7) 不作付地の解消

作物の栽培が困難な水田においては、薬用作物等を活用し、地域の農村景観を維持することを推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

別表1

4 平成28年度に向けた取組及び目標

別表2

3 作物ごとの作付予定面積

別表 1

単位 : h a

| 作物 | 平成25年度の 作付面積 | 平成27年度の 作付予定面積 | 平成28年度の 目標作付面積 |
|-----------|-----------------|-------------------|-------------------|
| 主食用米 | 283.23 | 253.65 | 250.00 |
| 飼料用米 | 0.00 | 0.80 | 3.00 |
| WCS用稻 | 2.72 | 9.54 | 12.00 |
| 大豆 | 0.00 | 0.90 | 1.00 |
| 飼料作物 | 5.00 | 5.60 | 6.00 |
| そば | 4.18 | 5.95 | 6.00 |
| 白ねぎ | 2.33 | 2.14 | 2.40 |
| なす | 0.20 | 0.47 | 0.50 |
| キャベツ | 0.08 | 1.32 | 1.50 |
| トマト | 0.41 | 0.38 | 0.45 |
| ミニトマト | 0.25 | 0.18 | 0.30 |
| 広島菜 | 5.45 | 5.68 | 5.80 |
| メロン | 0.41 | 0.36 | 0.45 |
| 花き | 0.94 | 1.88 | 1.90 |
| その他地域振興作物 | 8.07 | 9.35 | 9.72 |
| ピーマン | 0.34 | 0.40 | 0.42 |
| インゲン | 0.47 | 0.47 | 0.50 |
| 雑穀 | 0.10 | 0.40 | 0.50 |
| その他野菜 | 5.96 | 6.88 | 7.00 |
| その他の作物 | 1.20 | 1.20 | 1.30 |

4 平成28年度に向けた取組及び目標

別表2

単位：ha

| 取組番号 | 対象作物 | 取 組 | 分類※ | 指 標 | 平成25年度 (現状値) | 平成27年度 (予定) | 平成28年度 (目標値) |
|------|-------|----------------------|-----|------|-----------------|----------------|-----------------|
| 1 | そば | 所得増加につながる作物として産地化を図る | ア | 面積拡大 | 4.18 | 5.95 | 6.00 |
| 2 | 白ねぎ | 所得増加につながる作物として産地化を図る | ア | 面積拡大 | 2.33 | 2.14 | 2.40 |
| 3 | なす | 所得増加につながる作物として産地化を図る | ア | 面積拡大 | 0.20 | 0.47 | 0.50 |
| 4 | キャベツ | 所得増加につながる作物として産地化を図る | ア | 面積拡大 | 0.08 | 1.32 | 1.50 |
| 5 | 花き | 所得増加につながる作物として産地化を図る | ア | 面積拡大 | 0.94 | 1.88 | 1.90 |
| 6 | トマト | 所得増加につながる作物として産地化を図る | ア | 面積拡大 | 0.41 | 0.38 | 0.45 |
| 7 | ミニトマト | 所得増加につながる作物として産地化を図る | ア | 面積拡大 | 0.25 | 0.18 | 0.30 |
| 8 | 広島菜 | 所得増加につながる作物として産地化を図る | ア | 面積拡大 | 5.45 | 5.68 | 5.80 |
| 9 | メロン | 所得増加につながる作物として産地化を図る | ア | 面積拡大 | 0.41 | 0.36 | 0.45 |

※分類欄 ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
ウ 地域特産品など、ニーズの高い商品の産地化を図るための取組を行なながら付加価値の高い作物を生産する取組